

令和8年1月号

春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
<https://www.saintnoah-kasukabe.jp>

ノア Smile

1月



～目次～

- 理事長挨拶
- 病院短信
- 日常の一コマ
- いきいき看護・介護
- 栄養科だより
- キャンドルサービス
- スタッフ紹介

吉村 一克
田巻 國義
松尾 綾子
橋本 英介
穴久保 沙耶香
病棟デイルーム
織恵 まゆみ

1月の予定

◇誕生日会 各病棟デイルーム 14:00～

- 1病棟 1月16日(金)
- 2病棟 1月13日(火)
- 3病棟 1月19日(月)



◇初詣&獅子舞 各病棟デイルーム 14:00～

- 1病棟 1月 9日(金)
- 2病棟 1月 6日(火)
- 3病棟 1月 5日(月)



12月25日、厳かにキャンドルサービスが開催されました。



ナイチンゲールにならい、手にはキャンドル、看護の初心を胸に、職員が各病棟を訪問、デイルームでは患者さんとのクリスマスソングが高らかに響き渡っていました。



「おじいちゃん、おばあちゃん
いつまでもお元気で!」



プレゼントも
頂きましたヨ!

スタッフ紹介

2病棟 看護師
おりえ 織恵 まゆみ

血液型：O型
趣味：旅行、温泉めぐり



子育てもひと段落し、これからは趣味の時間を大切にしたいと思っています。旅行や温泉めぐりなど、心も体もリフレッシュできる時間を楽しみながら、毎日を前向きに過ごしていきたいです。日々のご縁や周囲の方々の支えに感謝し、明るく穏やかに過ごしていけたらと思っています。



理事長挨拶

理事長 吉村 一克

新年あけましておめでとうございます。
新型コロナウイルス感染症が日本に侵入してから6年が経ち、やつと通常の生活に戻ってきたような気がしています。昨年末はインフルエンザが流行りましたが、マスクや三密がマスコミを騒がすこともなくなりました。

犬の名前は、モモ、ミミ、メメ、ネネ、ハナ、ヒメ、最近の流行りのムギ等二文字の名前が多く、覚えるのに苦労しています。当院のセラピー犬は「ナナ」ですが…。

「身体は何ともないです。頭がすっきりしないですね。もう82歳だからしょうがないと思ってます。」と笑う○○すみサン。「御飯がお茶碗の底にこれぐらいしかないんだよ。半分でいいから増やしてくれない。」と切実に話す○○やなぎサン。「ネクタイ素敵。これからもよろしく。」いつもほめてくれる○○ベサン。「もう引退させてください。足が痛くてトイレも一人じゃいけない。迷惑かけるだけで情けないよ。」と泣きそうに話す○○のサン「稼いでくる旦那にはさせられないから毎日雪かきしてたんですよ。もうみんな亡くなって身内はいなくなっただんですけど。」となぜか娘さんのことは忘れてしまった○○ざわサン。「娘夫婦がもめてるみたいなの。私が話をしないと収まらないから行ってくるわ。」と娘さんは子ども扱いな○○だサン。「え、おせんべい、いただきます。煎餅屋の息子だったんで煎餅は大好き。」文句も忘れて喜んでくれる○○いサン。「治療は時間がかかるから別にこのままでいいよ。これから来るからハハハ」と遠回しに退院を訴える○○はらサン。「走れないわよ。もう若くないんだから。」と冗談に笑って返してくれる○○やまサン。

「患者さんの名前を覚えると単に訴えを聞くのではなく、人として診ることが出来る。」と教えてくれた先生がいました。当院には一病棟56人、病院全体で168名の患者さんがいて、衰えた記憶力で覚えられるのか：「認知症の良い薬ができないかな」は個人の切実な願いでもあります。皆様が良い一年を過ごせますように。

病院短信

新年おめでとうございます。

令和8年が始まりました。皆様良いお正月をお迎えでしょうか。春日部セントノア病院は、川越セントノア病院が開院して、三年後の平成十八年に開院しました。「認知症」という言葉が使われ始めたのもその頃からです。

所沢の大学病院で外科医だった自分が、縁あって川越セントノア病院に二年勤務した後、当院に赴任して、二十数年の時が流れました。当院の保育室で、当時のスタッフの赤ん坊が今は社会人です。節目にいつも星霜移りゆくその速さにただ驚くばかりです。

さて当院は

一、拘束しない

一、入院期間に制限を設けない

開院からこの二つの大きな方針を守り続け、「医療と福祉の併行」を実践してきました。認知症患者を拘束しないで介護することは他では見られません。

他院から当院を見学に来られるスタッフも多く、皆さんが「患者さんの表情が穏やか」とおっしゃいます。認知症の根本的な治療が期待できない現状では、患者さんの生活の質を高めることが目標となります。すなわち日常の業務も、食事やおやつ、入浴介助、リハビリ体操、音楽療法、談話室でのティータイム、天気が良ければ広い芝生の散歩、じゃがいもや大根畑でのひとときなど、患者さんが楽しみにしている時間帯です。多くの患者は入院前より元気になり、食事がすすむと声も大きくなります。家族の方も「こんな明るい表情久しぶり」と喜んでくれます。活気ある病院を皆さんぜひ見学においで下さい。

医療は原則、院内で実施します。医療内容は一般の病院と変わりません。高齢で（平均年齢八十五歳）免疫力が低下している患者が多いので、インフルエンザ、コロナウイルスなどの感染症対策は今後も大きな課題の一つです。入院期間は平均三〜四年で十年を超える患者もいます。

「医療をどこまでやるか」

答えは一律ではありません。長く患者を支えてきた家族の意見が反映されるべきで、病棟との丁寧な話し合いが必要です。病状の把握は、病棟と家族が共有することが大切です。今後皆さんの率直な意見をお知らせ下さい。私たちスタッフにとっては、患者とその家族が「この病院と知り合えて良かった」と思ってくれることが最高の喜びと励みになります。

昨年も内外での自然災害や戦争などのニュースが多い中で、日本からノーベル賞受賞者が二人発表され勇気をいただきました。資源の乏しい日本ですが、努力や勤勉さ、忍耐強さなども立派な資産ですね。

今年の干支は午です。前向きで明るく行動力があり、健康と発展の象徴でもあるとのこと。すね颯爽と駆け抜ける駿馬もいいですが、安全と安心を背負って一歩一歩進む馬の役割も大切です。ね。私達も、当院のモットーである、チームワークと明るさを大切にゆっくり進んでいきたいと思っています。

今年も皆様にとって良い一年であることを祈願して、年頭の挨拶と致します。

院長 田巻 國義



今回ご紹介する利枝さんは春日部市で生まれ育ち、中学校卒業後に職業訓練校に通い、25歳まで裁縫関係の仕事をしていました。26歳で結婚し2人のお子さんに恵まれました。

元々がおとなしい性格であまり家から出なかったそうですが、令和6年4月ごろから「死にたい」「川に飛び込みたい」などの発言が聞かれるようになり、症状にはムラがありましたが、年末ごろからご家族に対して暴言、暴力行為がみられるようになりました。

翌年に自宅で意識を失い、救急病院へ搬送され、慢性硬膜下血腫の診断で入院されました。入院後は認知症状の悪化によりリハビリの指示が入らず、拒否や大声での声出しが多くなりました。

令和7年5月、当院に入院された当初は食欲が無く、しばらく点滴をしていました。面会の時にご家族が持ってきたパンやお菓子はよく召し上がることから、試しにおやつにパンを提供したところ、ご自分でちぎってパクパクと完食されました。

その後はパンからおにぎりに、おにぎりから米飯に変わり、しかもお箸できれいに召し上がるようになりました。現在は少し柔らかい形状のものに変わり介助を要しますが、食欲は変わっていません。

また利枝さんは車イスに乗ってホールで過ごされている時、大きな泣き声をあげることがあります。「どうしました？」と声をかけると一瞬真顔に戻り、照れくさそうに「えへ。」と笑顔になります。そんな利枝さんがとても可愛らしくて、泣いていると真っ先に声をかけたくくなります。

これからも利枝さんが穏やかに過ごせるよう、お手伝いできればと思います。

3病棟 介護福祉士 松尾 綾子



栄養科 だより

管理栄養士 穴久保 沙耶香

新年おめでとうございます。

当院では、元旦の昼食はおせちを提供させていただいております。

今年の絵馬かまぼこは、将棋の駒の絵柄です。飾り駒に見られる鏡文字の【左馬】は縁起が良いとされているため、かまぼこの向きに迷った末、分かりやすさから通常の右向きの馬での提供としました。新年を祝うおせち、患者さんは満足して頂けたでしょうか。おせちを提供するにあたって毎年、厨房職員にお願いしていることがあります。それは、『患者さんにとっては目の前のお食事が唯一である。どれが配膳されても思わず笑顔になるような素敵な盛付けをしてほしい。』です。

食事は見た目が大切だと感じています。特に認知症を患っている方にとって、目の前の物を食べ物だと認識し、「食べたい」と感じてもらうためには、おいしそうに見えなければなりません。もちろん、おせちに限らず普段のお食事にも言えることです。本年も安全安心、見た目にもこだわったお食事を提供していきます！



いきいき看護・介護

3病棟 介護福祉士 橋本 英介
新年あけましておめでとうございます。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

去年の9月より従来のインフルエンザA型の変異株『サブグレートK』が猛威を振るっていましたが、徐々に感染も減ってきました。しかし油断は禁物です。基本的な症状や予防は従来型と同じとされているので、症状が出た場合は早めに医療機関を受診しましょう。また家族感染を防ぐための隔離、換気、加湿も心がけましょう。

当病院でも患者さんに感染しないように定期的に換気や加湿をしたり、寒気や変調を訴える方に対しても早めの観察対処をしたり、暖かい恰好をしてもらう等の対策を行っています。また近距離で接する職員も例年より1ヶ月早いワクチン接種を行い、体調に異変を感じたらマスクをするなどの対策をして、幸いなことに現在まで誰ひとりインフルエンザに罹ることなく過

ぎっています。インフルエンザは何時どこで誰からうつるかわかりません。体調の変化を日々観察し、自分自身や患者さん、家族にうつさないように各自が予防出来ることを行い、十分な睡眠、手洗いとうがい、バランスの良い食事摂取、適度な運動などで免疫力を高めて、この冬を乗り越えましょう！

